

2024年9月20日(金) 名古屋市千種文化小劇場 [ちくさ座]

# 歴史講演会「名古屋の文明開化と江戸川乱歩」

～Q&A～ 講師 小松史生子

早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 教授



不子語を少しずつ読み進めております。  
講演内容をふまえて、おうかがいします。  
小松先生は「人間椅子」のどこまでが乱歩の体験だと、お考えになられますか？  
語り口、楽しい講演ありがとうございました。



「子不語の夢」を読んでもらって、ありがとうございます。  
「人間椅子」は、乱歩が横溝正史と街を歩いていて、家具屋に入り、いきなり店主に椅子を指して「この椅子に人間は入れますか？」と質問したというエピソードが残っていますね。  
新しい文化として入ってきた洋椅子（ソファ）への物珍しさは、狭くて暗いところが好きな乱歩の性癖を刺激して、内部に入ってみたいという気持ちを抱かせたことは間違いないと考えています。



江戸川乱歩のお母様、きくさんについては、どうやって調査を進める方針でられますか？  
私は浜松市出身で、本田儀平という人物（本田宗一郎のお父さん）について調べようとしておりますが、地域の民俗学研究会の一員として、自治会長さんなどを頼って地元の古老をさがしても、もはやわかる方がおらず…。



こうした調査は、なかなか難しいですね。まずは、乱歩が回想録で記した平井家の家系図を頼りに、縁故を一つ一つ辿るという方法しかないかと考えています。平井家の親戚・縁戚関係の方々に、ご遺族を通してお話をうかがう機会をいただければ、何か証言が得られるかもしれません。



私は、パノラマ島奇譚の実際は、小さな島なのに広大な風景に見えるというところが、遠近のさっ覚を利用したジオラマの影響かと思い、鶴舞公園で乱歩が見た旅順海戦の模型？から得た想像ではないかと思っています。小松先生はどのようにお考えでしょうか。



そのとおりだと思います！  
乱歩作品には、よく視覚のトリックが出てくるので、その原型は旅順海戦館にあるとみて間違いありません。



関西府県連合共進会の写真は北向きですか？南向きですか？（名工大生だったので、花見の時、噴水池で泳ぎました）



どちらでしょうか。現在の鶴舞公園の付置からみると、北向きに撮っているようにも思えますが。

# 歴史講演会「名古屋の文明開化と江戸川乱歩」

～Q&A～ 講師 小松史生子

早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 教授

洋室=公、和室=私、という対立軸は、大正の一般市民（労働者？）も共有できたのでしょうか。エリート故の先取りなのでしょう。

（“クレヨンしんちゃん”のホラー回で、ネネちゃんとうさぎの人形のシリーズでは、ダイニングにおっさんくさい（？）うさぎが陣取り、ネネちゃんがリビングに逃げこんでいたのですが、今回のお話と重ねると、少し面白いと思いました。）

文化住宅に住める程度の経済的余裕を持った人々の共有意識であることは間違いなく、そうした経済的余裕のある程度の層の日本人が持てるようになったのが、第一次世界大戦期に日本が軍需で潤った大正景気の時代です。まさに「人間椅子」が発表された時代ですね。

そうした経済的余裕を持てなかった人々にとっても、メディアを通して文化住宅のムーブメントは伝達され、憧れの対象としてイメージ共有はされていました。文学は、そうした憧れのイメージを共有させる装置でもあります。

「クレヨンしんちゃん」の情報、面白いですね。

乱歩の名古屋での幼少の体験が、前近代と近代のバランス感覚を育てさせ、不気味な前近代的世界（見世物小屋）を書くことを可能せしめたという話も、人間椅子における和洋の部屋の対比から、当時まだ新しかった洋風の世界が不気味なものだったことが分かるという話もどちらも納得できた。

しかし、前者の和（前近代）を不気味とするということと、後者の様（近代）が不気味になるというのは、構図は同じでも対称的に思えた。この2つの話がどうつながっているのかということをもう少し詳しく知りたい。

例えば、椅子から出てくる男が「お化け」のような酷い外見をしている描写が、重要だったりするのだろうか？

「人間椅子」における洋館の書斎に置かれた洋椅子（ソファ）は、まだ新しい文化として物珍しく、それだけに未知の畏怖をも日本の住環境にもたらず装置として働いたかと考えられます。それで、そうした未知の文明装置から、見知らぬ不気味なもの（馴染みのないもの）が出てくるといった、恐怖の想像力が喚起されるわけですね。椅子から出てくる男の醜貌は、その未知のものへの恐怖の暗喩ではないでしょうか。

江戸川乱歩に興味を持ったのは高校時代からですか？それとも大学に入ってからですか？なぜ好きになったのですか？きっかけは？

江戸川乱歩作品の中で、どれが一番好きですか？

江戸川乱歩以外で、好きな作品を教えてください。（どんなジャンルでもいいです）

乱歩に興味を持ったのは、小学校低学年の時代ですね。もちろんポプラ社の少年探偵シリーズが、一番影響深いです。当時は同じポプラ社のアルサーヌ・ルパンのシリーズの方が好きでしたが（ルパンがイケメンなので）、もともと怪談やホラー好きでしたから、少年探偵シリーズのおどろおどろしい装丁には心惹かれました。

乱歩作品で一番好きな作品は、「孤島の鬼」ですね。日本文学史上でも稀有な、究極のラブロマンスだと思います。

乱歩以外で好きな作品は、その時その時でランキングが変わるのですが、私は海外小説を日本小説よりも先に読み始めた人間なので、デクシュペリ「夜間飛行」の非情なヒロイズムには感銘を受けました。

# 歴史講演会「名古屋の文明開化と江戸川乱歩」

～Q&A～ 講師 小松史生子

早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 教授



乱歩がなぜここまで頻繁に引っ越しを繰り返していたのか気になる。

本当に気になる(笑)。同じ空間に長くいると退屈するといった性分だったようですね。乱歩作品の主人公たちも、いつも「退屈」を感じている人々です。



小松先生の思う江戸川乱歩の人物像は、端的に言うとなんでしょうか？  
ミステリー作家やミステリー小説好きに共通するもの・性格・思想はありますか？

私は、その世界に深く触れていないので、素人目線になりますが。  
狂気とグロ・残酷、そして(人間が嫌いや憎いというわけではなく、むしろ逆で)人間のことが好きなよりに感じます。ミステリーでは、トリック(理屈)と、暗い動機(人の心)を重視するように、一見その残酷に人を殺しながら人が好きという、矛盾したような作家の心をときおり不思議に思います。

江戸川乱歩の人間像は、意外にも、「バランスの取れた考え方をする人」です。突拍子もないアイデアを思いついたり、マニャクに物事を考え詰める傾向はありますが、対人関係の築き方はむしろ堅実で義理堅い人でした。



ミステリー作家は、物事の裏を覗いて、常識を転倒させる世界観を愛するという共通性があると思いますが、日常的には実は温和な人が多いようにも感じますね、面白いところです。矛盾した人格を持っているという点は、大いに賛同します。



やっとかめ文化祭の頃から、何度も講義を拝聴しています。

先生のおかげですっかり乱歩のファンになり、幼い頃に読んだ怖い小説を又読み返しています。

今回の講義とは関係ありませんが、乱歩はどうして江戸川乱歩賞を作り、推理作家の後輩たちにエールを送る気になったのでしょうか。

又、遊郭の跡地を尋ねたとおっしゃっていましたが、それは、何かの小説に反映されているのでしょうか。

江戸川乱歩賞を乱歩が自腹を切って作ったのには、戦後日本で探偵小説・推理小説のジャンルをいっそう向上させるために、若い書き手を経済的に援助するべきだという考えによると思います。乱歩は早稲田大学政治経済学部卒業で、経済に非常に関心が深く、ジャンルの書き手を育てるには彼らの経済面のバックアップが必要と考えたのは確実です。加えて、賞を作ることで、メディア上の宣伝にもなりますね。



遊郭の跡地に泊まるのが好きだったという点が、小説に反映しているかという点、実はほとんどかがえないあたりが、横溝正史の作品などと比較すると大きな違いで、面白い特徴になっています。

何度も当方の講義を聞いていただいて、ありがとうございます！ たいへん嬉しいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。